

安全データシート

整理番号 No.1101

作成 1995年10月05日 改訂 2025年04月01日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 硝酸測定用前処理剤 型式 NO3-RA

会社名 株式会社共立理化学研究所

住所 〒226-0006 神奈川県横浜市緑区白山1-18-2 ジャーマンインダストリーパーク

電話番号 045-482-6937

F A X 045-507-3418

用途と使用上の制限 水質測定用の試薬

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性：	分類できない	(GHS分類に必要なデータなし)
健康有害性：		
皮膚腐食性／刺激性：	区分1	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分1	
呼吸器感作性または皮膚感作性：	区分1（皮膚）	
上記で記載のない健康有害性の項目は、	すべて区分外または分類できない	(GHS分類に必要なデータなし)
環境有害性：		
水生環境有害性 短期（急性）：	区分3	
水生環境有害性 長期（慢性）：	区分3	
オゾン層への有害性：	分類できない	(GHS分類に必要なデータなし)

【GHSラベル要素】



【注意喚起用語】

危険

【危険有害性情報】

重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
水生生物に有害
長期継続的影響により水生生物に有害

【注意書き】

試薬は子どもの手の届かない、乾暗所（常温）に保管すること。
使用前に使用法をよく読み、記載以外の使い方をしないこと。
必要に応じて個人用保護具を使用すること。
試薬を吸入しないこと。
汚染された衣類は洗濯すること。
取扱い前後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

試薬名	試薬	
化学名	スルファニル酸	その他*
含有量	99 - 99.5 %	0.5 - 0.9 %
化学式	C6H7NO3S	—
官報公示 整理番号	(3)-1971	—
CAS No.	121-57-3	—

*規制物質含まず

4. 応急措置

試薬や測定液が

眼に入った場合：直ちに流水で15分間以上、よく洗眼する。その後、直ちに眼科医の手当を受ける。

皮膚に付いた場合：直ちに多量の水で触れた部分をよく洗い流す。

口に入った場合：直ちに多量の水で口の中をよく洗い流す。

上記の措置後に異常があった場合には、直ちに医師の手当を受ける。

特に試薬や測定液を飲み込んでしまった場合には、多量の牛乳または水を飲み、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火方法：火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。

消火剤：水（噴霧）、粉末消火薬剤、炭酸ガス、乾燥砂

6. 漏出時の措置

屋外では、試薬や廃液がこぼれないように注意する。

屋内では、机面・床面等に試薬や廃液がこぼれた場合は直ちに拭き取り、廃棄する。

その際、眼や皮膚に触れないようにする。

濃厚廃液が下水道や河川等の周辺環境に流出しないように注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：試薬は眼や皮膚に触れたり、口に入れたりしないように注意する。

特にチューブ内の粉末試薬は吸い込まないように注意する。

本試薬、及び試薬添加後の検水はpH2以下の強酸性であるので注意する。

また、屋外での使用時には、試薬および測定後の廃液、使用済み容器は必ず持ち帰る。

保管：直射日光を避け、乾暗所（常温）に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度（作業環境評価基準）：設定されていない。

許容濃度（日本産業衛生学会）：設定されていない。

(ACGIH(TLV(s)))：設定されていない。

(OSHA(PEL))：設定されていない。

保護具：保護眼鏡・保護手袋等の使用が望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態：粉末試薬 0.15g×50本/キット ポリチューブ+ポリ袋入り

試薬の色：白色

試薬の臭い：なし

pH：2（本試薬添加時）

混合物として融点、沸点、引火点、発火点、爆発限界下限、蒸気圧、密度、比重、溶解性、Pow、動粘性率等のデータなし。

10. 安定性及び反応性

高温、多湿、直射日光下への放置を避ける。
 通常の使用条件では安定であり、特定条件下で生じる危険な反応もなし。
 危険有害な分解生成物についてのデータなし。

11. 有害性情報

混合物についてのデータはない。個別物質について記す。

スルファニル酸：

急性毒性

ラット：LD₅₀=12300mg/kg、及び13200mg/kg (Technical grade) により (何れもIUCLID (2000)) 区分外とした。

皮膚腐食性／刺激性

ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、24時間暴露の結果「slightly irritating」(IUCLID (2000)) の記述があり、その他に20時間暴露で「mild rubor」及び「slight rubor」の結果 (IUCLID (2000)) の記述があるためJIS分類基準の区分外 (国連分類基準の区分3) とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験において、滴下後24時間の結果「moderately irritating」との記述があり (IUCLID (2000))、EU分類ではXi:R36 (EU-Annex I (access on 11 2008)) であるため区分2Aとした。

皮膚感作性

モルモットを用いたMaximization testにおいて、「sensitizing」との結果が2件 (IUCLID (2000))、それに加えモルモットを用いた複数の皮膚感作性試験で陽性の結果が得られている (全てIUCLID (2000))。またEU分類ではR43 (EU-Annex I (access on 11 2008)) であるため区分1とした。

その他の項目についてのデータなし。

以下、混合物としてGHS分類判定について記す。

〔皮膚腐食性／刺激性〕

混合物のpHが2以下である。 ∴ 区分1 (危険、重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷) に分類される。

〔眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性〕

混合物のpHが2以下である。 ∴ 区分1 (危険、重篤な目の損傷) に分類される。

〔呼吸器感作性または皮膚感作性〕

皮膚感作性 区分1の成分を1%以上含んでいる。

∴ 区分1 (警告、アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ) に分類される。

〔急性毒性 (経口、経皮、吸入)〕、〔生殖細胞変異原性〕、〔発がん性〕、〔生殖毒性〕、

〔特定標的臓器毒性 (単回暴露)〕〔特定標的臓器毒性 (反復暴露)〕、〔誤えん有害性〕

以上の項目は、区分外または含有成分のデータがそろっていないため分類できない。

12. 環境影響情報

混合物についてのデータはない。個別物質について記す。

スルファニル酸：

水生環境有害性 短期 (急性)

甲殻類 (オシジノコ) の48時間EC₅₀=85.66 mg/L (IUCLID, 2000) から区分3とした。

水生環境有害性 長期 (慢性)

急性毒性区分3であり、急速分解性がない (難分解性、BOD : 3% (既存点検, 2001)) ことから、区分3とした。

その他の項目についてのデータなし。

以下、混合物としてGHS分類判定について記す。

〔水生環境有害性 短期 (急性)〕

加算式の適用判定の結果、区分3 (水生生物に有害) に分類される。

〔水生環境有害性 長期 (慢性)〕

加算式の適用判定の結果、区分3 (長期継続的影響により水生生物に有害) に分類される。

〔オゾン層への有害性〕

含有成分がモントリオール議定書の附属書に列記されていないため分類できない。

13. 廃棄上の注意

事業活動で使用する場合は、各関係法令に従って適切に廃棄する。
本試薬及び、試薬添加後の検水はpH2以下の酸性である。
それ以外の場合は、残余廃棄物や使用済み容器はそのまま「燃やすゴミ」としての廃棄も推奨する。

14. 輸送上の注意

取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、容器が破損しないように乱暴な取扱いを避ける。
また、長距離の輸送の場合は長時間の高温状態は試薬の劣化が考えられるため、航空機による輸送が望ましい。

国連番号 3261
品名 その他の腐食性物質(有機物)(固体)(酸性のもの)
国連分類 クラス8 (腐食性物質)
容器等級 III
航空法 同上、ただし本製品は微量輸送許容物件に該当する。
消防法 該当せず。
製品総重量 約60g/キット

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法 該当せず。
PRTR法 該当せず。
労働安全衛生法 本製品はスルファニル酸を1%以上含有し、以下に該当する。
「法施行令 (名称等を表示すべき危険物及び有害物) 第18条 第2号」(R7.4.1以降)
「法施行令 (名称等を通知すべき危険物及び有害物) 第18条の2 第2号」(R7.4.1以降)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 廃液はpH2以下であり、同法上の特別管理産業廃棄物に該当する。

16. その他の情報

引用・参考文献

NITE (独) 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果データベース 平成 20 年度 ID; 20A2184 4-アミノベンゼンスルホン酸
国土交通省航空局監修, 航空危険物輸送法令集, 鳳文書林出版販売(2019)
JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法 (日本工業標準調査会 審議)
JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) (日本工業標準調査会 審議)
GHS国連文書 (仮訳 改訂4版)、GHS関係省庁連絡会議(2011)
経済産業省, 事業者向けGHS分類ガイドライン (平成25年度改訂版) (2013)

注) この情報は、必ずしも充分ではないので、取扱いには注意をお願いします。
本データシートは情報を提供するもので記載内容を保証するものではありません。
新しい知見やそれに伴う従来の考え方の修正等により、記載内容に変更が生ずることがあります。
なお、注意事項は通常の取扱いを対象としております。

更新履歴 (2024/04/01以降)

2025/04/01 労働安全衛生法の改正に伴う改訂